

教材教具および題材	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
水中エレベーター（浮沈子）づくり	中	せいかつ Dグループ (理科)	小橋真智子

<ねらい>

- 水と空気の性質で動くおもちゃをつくろう。
- 自分で操作して動きを楽しもう。



<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

<作り方>

- ① タレ瓶（魚）に油性ペンで色をつける。
- ② タレ瓶のキャップを外し、かわりにナットを入れる。
- ③ タレ瓶に水を入れる。  
※水の量を調整する。  
水のいったコップにタレ瓶（魚型の醤油入れ）を入れ、水面から尾が出る感じがちょうどよい。
- ④ ペットボトルに水を入れる。
- ⑤ ③を、ペットボトルに入れ、水がいっぱいになるように調整する。  
キャップを閉めたら完成。

<あそび方>

- ① ペットボトルを、横からギュッとおす。⇒魚が沈む
  - ② 手を離してみる。⇒魚が浮き上がる
- ※握る力が弱い生徒には、柔らかめのペットボトルを用意した。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

浮沈子づくりでは、見本を提示し、タレ瓶に入れる水の量が大事であることを伝えると、タレ瓶の水の量を減らすなど、自分で考えながら取り組む姿が見られた。浮沈子を2個作って入れ、順番に沈めてあそぶ姿が見られた。ペットボトルを自分で操作し、浮沈子が浮いたり沈んだりする様子をうれしそうに眺めたり、目で追いながら動きを楽しんだりする様子が見られた。どの生徒も自分の作ったものに興味をもち、自分で操作して楽しむことができた。

<その他（材料、費用、購入先等）>

ペットボトル（炭酸のはいったもの）、たれびん（醤油の入れもの）、ナット（M6）油性ペン

